

題材計画（家庭分野）

I 題材の目標を作成する

※ 技術・家庭科における題材とは、教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して、各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織したもの

II 題材の評価規準を作成する

III 「指導と評価の計画」を作成する

- I、IIを踏まえ、評価場面や評価方法等を計画します。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりします。
- ※ 評価資料（評価方法）は太字で示しています。

指導計画を作成するに当たっては、教科の目標の実現を目指し、中学校3学年間を見通した全体的な指導計画を検討します。その際、各内容の「生活の課題と実践」の項目A(4)、B(7)、C(3)については、他の内容と関連を図り、3学年間でこれら三項目のうち、一以上選択して履修するとともに、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮します。

題材名 自立した消費者となるために

1 題材の目標

- 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応、消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- 物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	<p>物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けてい</p> <p>る。</p>	<p>よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>

3 指導と評価の計画（9時間）

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 自分や家族の消費生活 | 1時間 |
| (2) 多様な支払方法に応じた計画的な金銭管理 | 2時間 |
| (3) 物資・サービスの選択・購入 | 2時間 |
| (4) 消費者としての責任ある消費行動 | 4時間 |

※ 題材を、小題材で構成し、それぞれの授業時間数をどの程度にするのか計画を立てます。
※ 題材の各授業時間における「ねらい・学習活動」や「評価規準・評価方法」について示します。
ここでは、題材の3時間目の途中まで示しています。

小題材	時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分や家族の消費生活	1	<ul style="list-style-type: none">○自分や家族の消費生活について問題を見いだし、課題を設定することができる。・自分の生活に必要な物資・サービス（電気・ガス・水道等も含む）の購入時に関わる問題点等を発表し合う。・自分の消費生活の課題を設定する。	<p>①物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだしして課題を設定している。</p> <p>・学習カード</p>	<p>②購買方法や支払い方法の特徴について理解している。</p> <p>・学習カード</p>	<p>①金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・ポートフォリオ</p>
		<p>自立した消費者となるためには、どのような消費行動をとればよいだろうか。</p>			
		<ul style="list-style-type: none">○多様化した購入方法や支払い方法の特徴について理解することができる。・スニーカーの購入場面について、購入方法の特徴（店舗販売、インターネットを介した通信販売などの無店舗販売）についてまとめ、それぞれの利点と問題点を話し合う。・スニーカーの購入場面について、支払い時期（前払い、即時払い、後払い）の違いによる特徴や、クレジットカードによる三者間契約と二者間契約の利点と問題点を考え発表する。			
多様な支払方法に応じた計画的な金銭管理	2	<ul style="list-style-type: none">○多様な支払方法に応じた計画的な金銭管理の必要性について理解することができる。・模擬家族の物資・サービスの購入場面について、購入する優先順位や支払い方法を検討し、各自の考えをグループで交流し、全体で発表し合う。	<p>②計画的な金銭管理の必要性について理解している。</p> <p>・学習カード</p>	<p>①（支払い方法）記録に残す評価</p>	<p>③「～について工夫し創造し、実践しようとしている」</p>
		<p>「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立てを考えるための評価</p>			

【題材を設定するときの配慮】
生徒の発達の段階等に応じて、効果的な学習が展開できるよう、内容「A家庭・家庭生活」から「C消費生活・環境」までの各内容項目や指導事項の相互の関連を図るようにします。

題材の目標は、学習指導要領に示された分野の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定します。

題材の評価規準の作成は、学習指導要領の指導する内容の記載事項の文末を「～している」「～できる」と変換するなどの方法があり、生徒に資質・能力が身に付いた姿を示します。

※ 3学年間を見通して、学習過程を工夫した題材を計画的に配列し、課題を解決する力を養う。

【「思考・判断・表現」のポイント】
学習指導要領の「教科の目標（2）」に示されている学習過程に沿って、各題材において、四つの評価規準①～④を設定します。

- 「～について問題を見いだしして課題を設定している」
- 「～について（実践に向けた計画を）考え、工夫している」
- 「～について、実践を評価したり、改善したりしている」
- 「～についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している」

【「主体的に学習に取り組む態度」のポイント】
各題材において、三つの評価規準①～③を設定します。

- 「～について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている」
- 「～について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている」
- 「～について工夫し創造し、実践しようとしている」

授業計画（家庭分野）

※ 題材計画（家庭分野）の指導と評価の計画（3／9時間）

学習カードの一部

中学校学習指導要領解説 技術・家庭編
第2章 第3節 3 家庭分野の内容
C 消費生活・環境

ア(7) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。

ここでは、キャッシュレス化の進行に伴って多様化した購入方法や支払い方法の特徴が分かり、收支のバランスを図るために、生活に必要な物資・サービスについて金銭の流れを把握し、多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理が必要であることを理解するようにする。

購入方法の特徴については、インターネットを介した通信販売などの無店舗販売を取り上げ、利点と問題点について理解するようにする。

支払い方法の特徴については、支払い時期（前払い、即時払い、後払い）の違いによる特徴が分かるようにするとともに、クレジットカードによる三者間契約を取り上げ、二者間契約と比較しながら利点と問題点について理解するようにする。

計画的な金銭管理の必要性については、収支のバランスを図るために、生活に必要な物資・サービスについての金銭の流れを把握し、多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理が必要であることを理解するようにする。その際、収支のバランスが崩れた場合には、各家庭におけるそれぞれの状況に応じて、物資・サービスが必要かどうかを判断し、必要なものについては、優先順位を考慮して調整することが重要であることを理解するようにする。また、生活に必要な物資・サービスには、衣食住や、電気、ガス、水、交通などのライフラインに係る必需的なものや、教養娯楽や趣味などに係る選択的なものがあることに気付くようとする。

指導に当たっては、購入方法や支払い方法については、小学校における現金による店舗販売に関する学習を踏まえ、中学生の身近な消費行動と関連を図って扱うよう配慮する。例えば、中学生に身近な商品を取り上げ、インターネットで購入する場合と店舗で購入する場合、現金による即時払いとクレジットによる後払いの利点及び問題点を比較する活動などが考えられる。

計画的な金銭管理については、生活に必要な物資・サービスの購入や支払い場面を具体的に想定して学習を展開するよう配慮し、高等学校における長期的な経済計画や家計収支等についての学習につながるようにする。例えば、自分や家族が毎日生活するために消費している物資・サービスを具体的に挙げ、それらの必要性を考えて分類し、限られた収入をどのように使うのかをグループで話し合い、調整する活動などが考えられる。

この学習では、社会科「公民的分野」「現代社会を捉える枠組み」「市場の働きと経済」などの関連を図るよう配慮する。また、購入方法や支払い方法の学習でインターネットを介した通信販売を扱う際には、技術分野の「個人情報の保護の必要性」の学習との関連を図るようにする。

※ 指導事項が太字で示されています。

※ 「指導に当たっては、」より後の文章に、具体的な学習活動の内容や指導上の留意点が示されています。

(1) 小題材名

多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理

題材計画を基に本時の授業で身に付ける資質・能力を示します。

(2) 本時のねらい

多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理の必要性について理解することができる。

(3) 学習活動と評価

時間	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
(分) 5	1 本時の学習課題を確認する。 金銭を計画的に管理することがなぜ必要なのか、考えてみよう	・前時の学習(支払い方法の種類や特徴)について確認する。	
10	2 模擬家族（Kさんの家族）の物資・サービスの購入について、家庭の状況を踏まえ、各自が購入する物の優先順位や支払い方法を検討する。	・模擬家族の家族構成、購入したい物、家計の状況、手持ちのカード等の情報を提示する。 ・既習事項やこれまでの経験をもとに考えるよう助言する。	購入する優先順位や支払い方法を検討する場面 ■評価方法 【学習カード】 知識・技能① 記録に残す評価
15	3 各自分が考えたことを、グループで交流し合い、気付いたことを全体で発表し合う。	・優先順位や支払い方法について、なぜそのように考えたのかを理由とともに発表するよう助言する。 ・全体で発表し合う際に、支払い方法の特徴について確認する。 ・金銭を計画的に管理するには、物資・サービスが必要かどうかを判断し、優先順位を考慮して調整したり、多様な支払方法に応じて考えたりする必要があることに気付くようする。	2時間目の学習カードの記述内容を「指導に生かす評価」とし、本時の学習カードの記述内容は「記録に残す評価」とする。
15	4 翌月以降の金銭管理において、どのようなことに気を付けたらよいのか、Kさんの家族へのアドバイスを考え、発表し合う。	・金銭を計画的に管理するためには、家計の現状を踏まえ、今後を見通して考えたり、記録するなど金銭の流れを把握したりすることが大切であることに気付くようする。	Kさんの家族へのアドバイスを考え、発表する場面 ■評価方法 【学習カード】 知識・技能②
5	5 本時を振り返り、気付いたことや分かったことをまとめ、発表する。		

多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理

1 Kさんの家族についての情報を確認しよう。

家族構成	父・母・Kさん（中3）・妹（中1）	
家族が購入する物	リビングに置くテレビ（3日前から映らなくなった）	150,000円前後
	Kさんの通学用の自転車（こわれてしまい、通学に不便）	25,000円前後
	妹のコンパス（あさっての定期テストで使いたい）	400円
	Kさんの部活動用のTシャツ（新しいものがほしい）	4,400円
家族が使えるお金	手持ちの現金	20,000円
	プリペイドカード	500円
	銀行口座の残高	50,000円
	クレジットカード	● 翌月25日に銀行口座から引き落とし ● 一括払い、3回の分割払い選択可（分割払いは手数料あり）
今後の収入	給料300,000円が、10日後に銀行口座に振り込まれる	

2 Kさんの家族が購入するものについて、優先順位や支払い方法を考えてみよう。

優先順位	購入する物	理由	支払い方法	その支払い方法にした理由
1				
2				
3				
4				

3 2の支払い方法にした場合、翌月以降の金銭管理において、どのようなことに気を付けたらよいだろう。Kさんの家族にアドバイスしよう。

（アドバイス欄）

生活の営みに係る見方・考え方を働かせる

家庭分野が学習対象としている家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること

【各内容で重視する視点】

- | | |
|-----------|---------------------------|
| A 家族・家庭生活 | 主に「協力・協働」 |
| B 衣食住の生活 | 主に「健康・快適・安全」や「生活文化の継承・創造」 |
| C 消費生活・環境 | 主に「持続可能な社会の構築」 |